

東山区の高齢者を対象とした地域のセーフティネットを構築する取組

東山区社会福祉協議会と京都女子大学（大学生）が中心となり、今熊野商店街振興組合、自治連合会等と連携した高齢者の買い物支援や見守りといった地域のセーフティネットの強化に取り組んでいます。

内 容

1. 買い物支援（コア支援）
2. エリア支援
3. LED電球をつかった相互見守りシステム

■ 東山区のセーフティネットワーク

1. 背景、経過

東山区の高齢化率は、市内で最も高く30.1%（平成22年国勢調査）、特に、昼間の高齢化率は53%（平成19年社会福祉協議会調査）に達しています。

一方、少子化も進んでおり、区内に11校あった小学校が、平成26年度には統合等により2校となる予定です。

また、区内人口も減少し、空き家が増加、5軒に1軒の割合で空き家が存在し、坂が多いという地域特性も持っています。

【高齢化に伴う地域に起きる3つの変化】

＜まだら化＞

空き家や空き地の増加

＜不可視化＞

人の姿がまちに見えなくなること

＜断線化＞

人と人とのつながりが切れること

2. 目的・ねらい

これまで地域活動に参加していなかった大学生が参加することで、地域ぐるみで高齢者の孤立防止、見守り（安否確認）、外出を支援する仕組みや取組に連動させていくことで、地域のセーフティネットを強化していくものです。

【目 的】

- 地域住民の可視化（人の姿がまちに見えるようになること）
- 経線化（人と人とがつながること）
- 地域セーフティネットワークの構築
- 自主的な住民活動展開を触発

(1) 平成22年5月～

高齢者の買い物を支援する「買い物応援隊（コア支援）」の取組を開始しました。

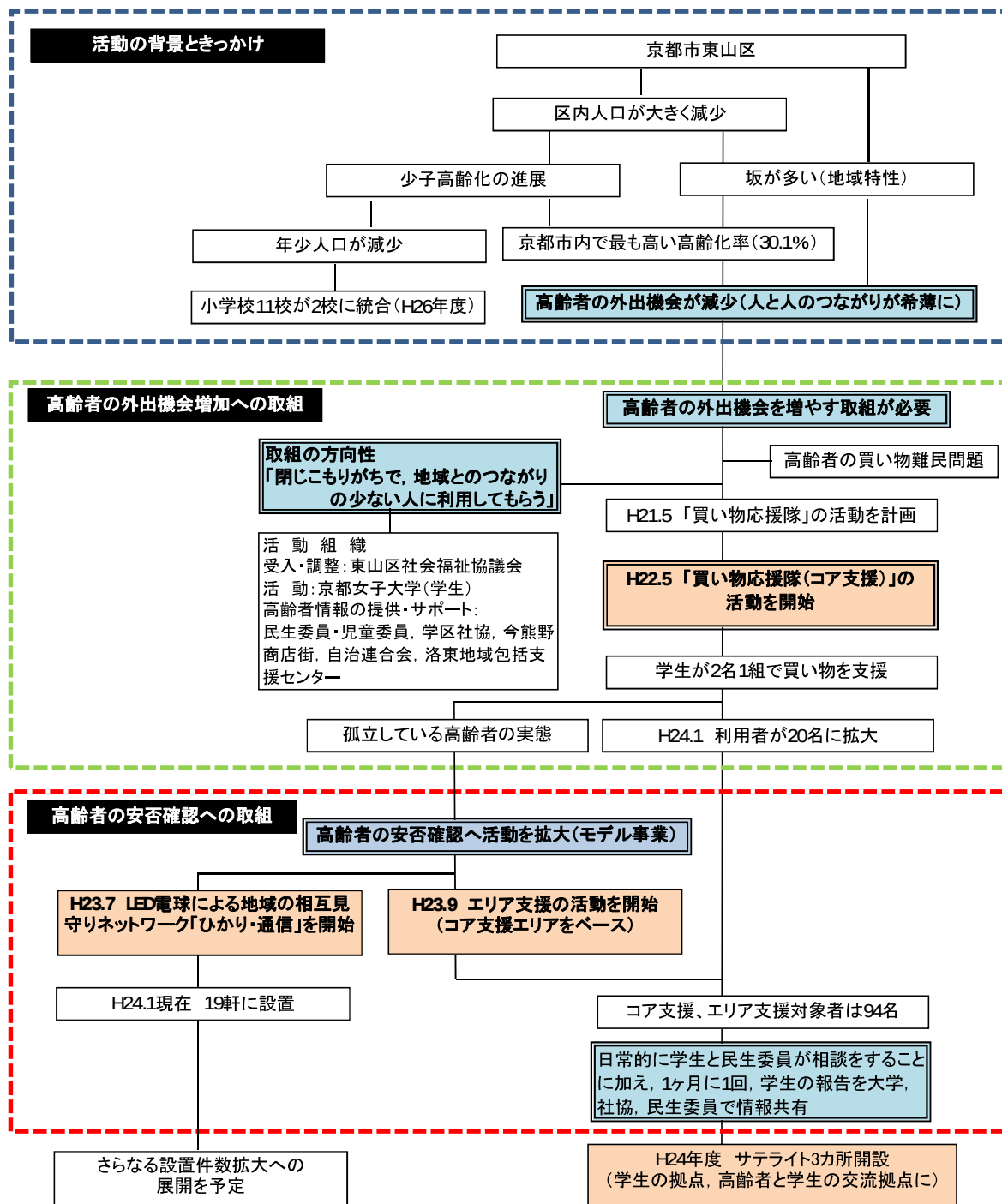
(2) 平成23年8月～

地域のセーフティネットを構築する「エリア支援」の取組を開始しました。

(3)平成23年7月～

高齢者に対して地域住民相互で、LED 電球の色の切り替えによる見守りを行う「ひかり・通信」の取組を開始しました。

【セーフティネットワークへの取組フロー】



3. 取組内容

■ 買い物支援（コア支援）

(1) 地域(学区)

今熊野，一橋，月輪，清水，六原，貞教，修道，新道

(2) 対象者，把握方法

対象者は，買い物支援を希望する高齢者（要介護認定の有無は問わない）

民生委員・児童委員，東山区社会福祉協議会等による地域の高齢者への声かけ，利用希望者は東山区社会福祉協議会へ申し込みを行います。（86ページ参照）

（利用者20人 平成24年1月末現在）

(3) 支援内容

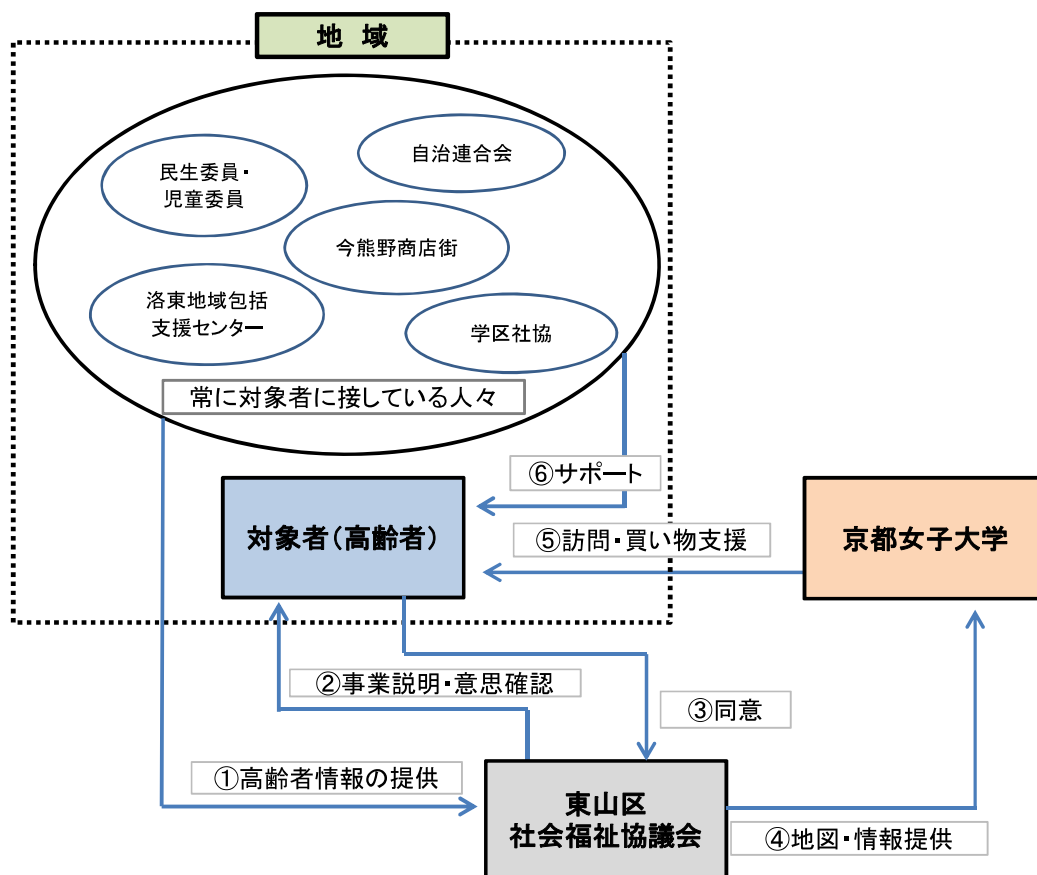
週1回（木曜日）午後12時30分～4時のうち2時間程度，学生2名1組で利用者の自宅を訪問，買い物に同行（代行）します。訪問時や買い物同行中の会話（コミュニケーション）についても利用者にとって重要な活動となっています。

毎回支援終了後，学生が所定の様式に記録（購入品，会話内容等）し，報告書として，大学に提出します。（88ページ参照）

(4) 情報共有の体制

学生から提出された報告書をデータベース化し，大学内のサーバで保管（東山区社会福祉協議会，大学，担当学生のみ閲覧可能）するとともに，報告内容を学生，大学から社会福祉協議会へ連絡し，必要な専門機関に繋がっています。

【「買い物支援」の組織と役割分担】



■ エリア支援

(1) 地域(学区)

今熊野，貞教，六原

(2) 対象者，把握方法

対象者は，地域で孤立，引きこもりがちな高齢者。

把握方法は，学生による各戸訪問，民生委員・児童委員からの情報提供です。（民生委員・児童委員が気になっている高齢者など）

（対象者 60 人 平成 24 年 1 月末現在）

(3) 支援内容

週 1 回（木曜日）午後 12 時 30 分～4 時のうちコア支援以外の時間（コア支援の前後の時間帯を利用，1 日 5 件程度を上限）を利用し，学生 2 名 1 組で対象高齢者の自宅を訪問，孤立防止，安否確認を行います。会話が中心ですが，家の中の簡単な整理，買い物代行，落ち葉清掃，草抜き等の日常生活における支援の希望があれば行います。

不在の場合や会えない場合についても，手紙（手書きメモ）をポストに投函することで，訪問していることを伝えます。当初は訪問しても拒否する高齢者は多かったですが，毎週訪問し，手紙投函を継続することで会えるようになったケースもあります。

毎回支援終了後，学生が所定の様式に記録（支援内容，対象者の変化，会話の内容等）し，報告書として，大学に提出します。（88 ページ参照）

(4) 情報共有の体制

学生から提出された報告書をデータベース化し，大学内のサーバで保管（東山区社会福祉協議会，大学，担当学生のみ閲覧可能）するとともに，2～3 か月に 1 回，東山区社会福祉協議会から民生委員・児童委員に対し，利用者の

状況をまとめた報告書を情報提供します。

■ LED 電球をつかった相互見守りシステム「ひかり・通信」

(1) 地域(学区)

貞教

(2) 対象者，把握方法

対象者は，高齢者世帯で地域単位での申し込みとなります。（つながりが強い地域が結果的に対象）

貞教社会福祉協議会による地域への勧誘活動の実施。

（19 軒 平成 24 年 1 月末現在）

(3) 支援内容

同一地域内の複数の家庭に 2 種類の色の異なる LED 電球を軒先等に取り付け，朝と夜で LED 電球の色を切り替えることにより，近隣の複数の目で相互に安否確認を行う取組です。

相互見守りについては，地域ごとにルールを決め，対象高齢者の近隣住民への周知，LED 電球の色が変わっていなかった場合は，社会福祉協議会の役員へ連絡します。

LED 電球の取り付け工事費用として 2 万円程度が必要となります。（実費負担）

(4) 情報共有の体制

現状で情報共有体制は特に設けていませんが，平成 24 年度から関係機関が集まり，情報共有できる体制の構築を検討する予定です。

4. 効果、今後の方向性（課題）

大学という地域の社会資源と連携し、高齢者の孤立防止、見守り、買い物支援といった取組を進めることによって、地域セーフティネット（見守り活動）の確立に寄与しています。

また、今後社会に出て行く大学生が、この取組を通して高齢化社会の実態や現状を体験することの意義も大きいと思います。

ただし、コア・エリア支援とも、大学生の数に限りがあり、今後対象地域の拡大を行うためには、これまで地域活動に参加していなかった住民なども巻き込んで、住民が主体となって地域のセーフティネットを構築する取組やその支援が必要となります。

今後は、平成23年度からモデル事業として実施しているLED電球をつかった相互見守りシステム「ひかり・通信」、平成24年度からの実施を検討している空き家などを活用した地域の見守り拠点（高齢者から子どもまで多世代が集まる拠点「サテライト」）の創設など、高齢者と地域社会との交流を深め、福祉のまちづくりを進める取組を行っていく予定です。

別紙1

日付：

事業利用登録用紙

社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会

お名前	(ふりがな)		性別	☐ 男 ☐ 女
年 齢	明治 ・ 大正 ・ 昭和 ・ 平成 年 月 日 (歳)			
住 所	(学区)			
電話番号		同居者の有無	あり ・ なし	
お身体の状況	①歩くのに注意していることは？			
	②気になるところがありますか？			
	③介護保険の要介護度は？			
	④障害手帳を持っていますか？			
希望内容	①買物同行 ※片道 30 分以内, 買い物時間は 1 時間以内が基準。	★購入したい品物(大まかに確認) ★行きたいお店		
	②配達	★購入したい品物(大まかに確認) ★希望のお店		
緊急連絡先	ふりがな		住所	
	氏名			
	電話番号		続柄(主治医・息子等)	

啓発チラシ(表・裏)

京都女子大学の

学生さんによる

買物支援事業を利用してみませんか？

(内容) 京都女子大学の学生(2名程度)が、ご希望される近所の商店やスーパーなどの日用品の買物に、一緒に、もしくは代わって行います。

(曜日と時間) 毎週木曜日(2週間に1度でも利用可能です)

①午後1時ころ、学生がご自宅へ伺います。

※2時、あるいは3時でもかまいません。

②一緒に、あるいは代行で買物を行います。

③利用時間は2時間以内です。

④学生との話もお楽しみください。

(主催) 東山区社会福祉協議会

(協力) 京都女子大学 六原自治連合会 六原民生児童委員協議会

(申込等) 自治連合会 もしくは民生児童委員会までご連絡ください。



回									
覧									

六原学区でも

はじまります！

第3 地域貢献活動

第3 地域貢献活動

『買い物応援隊』始動

東山・今熊野



買い物難民を学生さんで救済し、京都市東山区の今熊野地区が、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。地元、京都市東山区の学生さん、地元、東山区の商店、学生さん、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。地元、京都市東山区の学生さん、地元、東山区の商店、学生さん、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。

初日9人 「元気もらえた」

・今熊野地区の一人暮らしの買い物難民のお年寄りや障害者、無業不働日の若者、お年寄り一人だけのお子さん、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。地元、京都市東山区の学生さん、地元、東山区の商店、学生さん、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。

地元にはあつちの町がある、町のおおきき、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。地元、京都市東山区の学生さん、地元、東山区の商店、学生さん、お年寄りや障害者の方々に買い物をサポートする「買い物応援隊」が始動した。

学生は2名程度です

東山区日常生活用品購買支援事業 活動記録

利用者氏名 様

1. サービスの客観的記録

年(西暦) 月 日 ()		活動内容
事項	時間	

2. 地域セーフティネットの記述

大項目	小項目	内容
学生	コミュニケーション	
	その他	
容態	姿・態度	
	健康・精神状態	
	部屋の様子	
	その他	
環境	利用者宅	
	利用者宅周辺	
	その他	
行動	支援日(範囲・頻度・時間)	
	最近(範囲・頻度・時間)	
	その他	
社会性	支援日(交流・他者意識・関心事)	
	最近(交流・他者意識・関心事)	
	その他	

支援者氏名

京都のまちづくり活動

社会福祉協議会

平成23年度版 9月発行

目次

P.1 京都市の社会福祉協議会	P.3 子育て支援事業
P.2 居場所づくり活動	日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）
居守り活動	P.4 お知らせ 東日本大震災被災者支援の取組

京都市の社会福祉協議会（市社協）は、行政との社会福祉協議会（区社協）、小学校区ごとの学区社会福祉協議会（学区社協）の3層で構成され、市・区・学区の3層で構成されています。本年は、市社協が法人化して50周年を迎えています。市社協が法人化して50周年を迎えています。

京都市の社会福祉協議会を定めました！

若年、少子高齢化の進行やコミュニティの弱体化、厳しい雇用情勢を背景に、高齢者、障害者、ホームレスなどの新しい福祉課題が深刻化し、社会においても適切な対応が求められています。

さらに、東日本大震災で明らかになった災害時避難者への平時からの支援の重要性や介護保険制度における地域包括ケアシステムの年度からの導入を踏まえ、目標から寄せられたご意見も踏まえて、この度、社会福祉協議会を定めました。

人に優しく、災害に強い、信頼の絆で結ばれた福祉のコミュニティづくりを進めます。

社会の3つの役割（地域活動・相談支援・指定管理事業）と共通基盤の目標

地域活動の目標	相談支援の目標	指定管理事業の目標
● 住民相談、住民相談会や相談などを通じて、特に住民の福祉ニーズや地域の福祉課題を把握し、関係機関・団体と共有するとともに連携を図ることにより、住民の福祉ニーズの充足や地域の福祉課題の解決に取り組めます。 ● 福祉サービスや福祉利用フリーパスに加え、身近な地域で、高齢者、障害者、児童などに対する居守り活動、居場所づくりなどの生活支援を、活動の範囲を拡大するとともに、災害時にも力を発揮する住民の交流を促進します。 ● 広報・啓発、研修会、活動マニュアルや事例集の整備・活用により住民参加を促進するとともに、地域活動の担い手を育成し、活動の輪を広げます。	● 関係機関・団体との定期的な協議の場や個別支援における調整などを通じて、連携を深め、生活福祉資金貸付事業などの制度を活用して総合的な相談支援を展開します。 ● 広報・啓発による住民の理解を深め、関係機関・団体とも連携した個別支援のネットワークを広げ、災害時にも力となる地域ぐるみの支援を進めます。 ● 研修会の充実や経験の蓄積などにより相談支援の技術を向上させるとともに、日常生活自立支援事業や法人後援事業の充実などにより権利擁護を推進します。	● 利用者のニーズや生活課題などにより利用者本位の福祉サービスの提供に取り組む本会の福祉サービスは、社会福祉協議会や関係機関・団体とも連携し、地域交流事業を進め、地域の声を聴き、課題などに対応させるとともに、平時はもとより、災害時にも貢献できる、地域に開かれた施設づくりを進めます。

共通基盤の目標

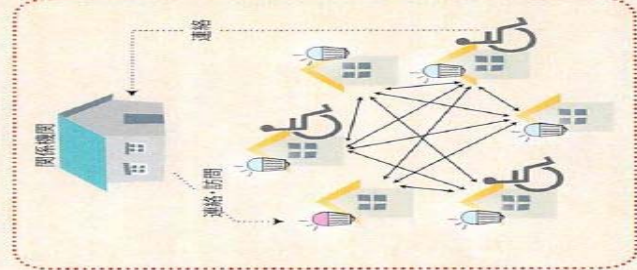
- 住民の福祉ニーズや時代の変化に対応した活動や福祉サービスを提供します。
- 個人情報や経歴の開示など法令を遵守し、誰もが参加しやすい環境づくりを進めます。
- 広報・啓発や研修をはじめ、あらゆる事業・活動を推進し、地域福祉の担い手の育成を進めます。

見守り活動

LED電球をつかった相互見守りシステム

『ひかり・通信』

見守られる側も力を発揮！



『ひかり・通信』の概念図

東山区社会福祉協議会は、地域の高齢化をふまえ、京都女子大学とともに電球をつかった見守り活動をはじめます。

この取組は、まず、同一地域内の複数の家庭に2種類の色の異なるLED電球を取り付けます。そして、朝と夜のスイッチ切り替えで色を変えることにより、隣近所複数の目で相互に安否確認をしようというものです。

「近所さん家で電球の色が変わっていない！」というときには、関係機関に連絡をして、確認を依頼します。

最も大きな特徴は、普段は見守られる側の立場の人も、この取組では見守る側として力を発揮することができることです。また、複数で見守るため、参加への心理的負担が少なく、さらには電球代がぐくわずかでも長持ち（年間1,000円程度、耐用年数10年）するということもあげられます。

全国にも例のない取組で、貴教社会福祉協議会の協力で進めているモデル事業と、関係機関との協議を経て、さらに展開していく予定です。